

来年春の
板橋区議会議員
選挙

公明党から 立候補予定の12人が公認決定

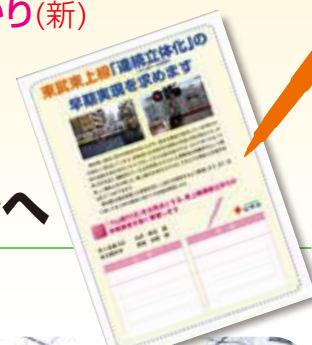
公明党は、11月6日の中央幹事会で、来年春に行われる統一地方選挙の予定候補の公認を行い、板橋区議会議員選挙に立候補を予定している12人の公認が決定しました。公認予定候補(現職10人、新人2人)は次の通りです。

はぎわら洋一(現3期)、松岡しげゆき(現3期)、小林きみひこ(現3期)、中野くにひこ(現3期)、大田ひろし(現3期)、なんば英一(現3期)、かいべとも子(現2期)、田中いさお(現2期)、しば佳代子(現1期)、いしだ圭一郎(現1期)、鈴木こうすけ(新)、成島ゆかり(新)

★東上線の立体化が大きく前進

大山駅付近が「事業候補区間」に決定、調査開始へ

板橋区民14万9千人の署名が強力な後押し



▲東京都の安藤副知事(中央右)に署名簿と要望書を手渡す、たちばな正剛都議(中央左)と公明党区議団(平成25年4月26日、都庁内)



▲大山駅付近の踏切を調査する、たちばな正剛都議

東京都はこのほど、東武東上線・大山駅の立体化について「鉄道立体化事業候補区間」に決定し、事業化に向けて大きく踏み出しました。

都は来年度から、事業対象区間となる大山駅付近沿線の測量や地質調査などを行い、その後に都が作成して地元を示す都市計画の素案に反映させる予定です。

公明党板橋総支部は、たちばな正剛総支部長(都議)を先頭に、平成25年3月25日～4月22日の期間、「東武東上線連続立体化」の早期実現を求める署名運動を展開、これには14万9073人もの署名が寄せられました。

これを受けて、同年4月26日に都知事宛に署名を提

出し、応じた安藤副知事に早期事業化を求めました(写真左)。

今回の「事業候補区間」の決定は、署名に寄せられた多くの板橋区民の強い要望が後押しになりました。公明党は、今後も区議会、都議会、国会が連携して早期着工を強力に推進することとしています。

なお、公明党板橋総支部が同時期に行った都営地下鉄三田線の利便性向上を求める署名(16万7505人、車両増結による混雑緩和、最終電車の繰り下げ)のうち、最終電車の繰り下げについては平成26年3月15日から繰り下げが実現しました。車両増結については引き続き実現に向けて取り組んでいきます。